真鶴町立まなづる小学校

研究テーマ：「粘り強く学ぶ子の育成～入力方法の工夫から～」

１、実践の目的

昨年度は算数科の学習を中心に、「学びを出力できる子」（具体的な姿としては「自分の思いや考えをもって、伝え合うことができる子」）の育成をめざして研究を進めてきた。学び合いのある授業を通して、算数が「わかる・できる」という自信をもつことで意欲が高まり、自分なりの考えをもって伝え合おうとする「学びを出力できる力」を育てることができると考えたからである。その結果、学習に苦手意識がある児童も、自分なりの考えを伝えることが増えた。その一方で他者の考えを聞いて自分の中でかみ砕いて考えること・じっくりと課題や教材を読み解こうとすることに苦手さがあるのではないかという課題が見えてきた。

そこで、今年度の研究では、「質の高い出力をするために、児童が情報を取り込む過程」を大切にして研究を進めていこうと考えた。児童が他者の考えを受け止め、様々な情報の中から取捨選択する力を身に付けることにより、より深まった考えを出力していく力を伸ばしたい。そのために、児童が主体的に学習に取り組むための単元づくりをしていくことを大切にして研究に取り組んだ。

２、実践の内容

（１）研究の内容

目標達成するための情報の取り込み方を身に付けることや基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるために、発達段階に応じた指導を取り入れていく。また、その際に「『やってみよう』と動き出す導入の工夫」と「あきらめたくなる場面（つまづき）の想定とその場面を乗り越えるための手立て」を大切にして取り組んできた。

また、読書活動も推進し、課題として示される文章や資料を読み解く力をつけることも取り組んでいく。

（２）研究授業、研究協議の様子

年間３回の研究授業全体会を行った。今年度は国語部と算数部に分かれてグループ分けをし、授業者だけが授業内容を考えるのではなく、グループのメンバーで授業を創り上げるように取り組んだ。

授業では、子どもたちがやってみようと思えるように授業の題材を工夫したり、子どもたちが取り組みやすくなるように用語を工夫したりして取り組んだ。その成果もあり、子どもたちが主体的に取り組む様子が見られた。

指導案上でつまずき場面を想定することで、「子どもたちが、どこでつまずくのか」を捉えようとする授業の視点が新たに生まれた。子どもたちが乗り越えるための手立ての必要性についても共通認識が高まった。

協議では、指導案作りに参画している教員が半数近く参加しているため、協議がとても深まった。

３、実践の成果

（１）教師の変容（身近な教材・新たな授業展開・ICT 活用・読書活動の大切さ）

・日々の授業の積み重ねが次の学習、次の学年へと繋がるという意識をもって取り組

むことができた。
- 読み物教材を扱う際の並行読書ができた。
- 前時までの学習関係の掲示物があることで、振り返りの充実が図られた。
- クラスメイトから認められる学級づくりをすることが、児童の安心感をうみ、意欲や自信、主体的な発言に繋げることができた。
- 「語り」という新たな言葉を知り、音読や朗読を含め、授業の展開の幅を広げることができた。
- 部内で互いに授業を見合い、成果と課題を共有して学習内容を練り上げていくことから、教師が協力し合い創りあげる楽しさを味わうことができた。
- 授業の流れの構造化を図ることは、児童にとって分かりやすい授業となった。（本時で何を習得させたいか明確になることで、発問も明確になった）
- 身近な題材を使うことで、子どもたちが主体的に取り組むことができ、意欲に繋げることができた。
- ICT の積極的な活用が図られた。→情報部が中心となり行ったロイロノートの活用紹介で今年度着任した職員も使い方の幅が広がった。

（２）子どもの変容
- 本時の問題（課題）に対して、今までとの違いに気付き、発言できる学級の雰囲気ができあがった。
- 単元のゴールに向かって毎日の音読に主体的に取り組むことができた。
- 誉め言葉のシャワーで大きな喜びを感じ、もっとやりたい、音読したいという気持ちになった。
- 音読したり、書いたり（タブレット・ノート）することに進んで取り組む児童が増えてきた。一方で、語彙力の低さが気になることも、引き続き課題となっている。読むことにおいても、作品中の言葉や表現に即して想像することが大切であるが、そのためには語彙力を高める必要があることを実感した。

４、今後の展開

（１）今後の研究の方向性

テーマは、今年度と同じく『粘り強く学ぶ子の育成～入力方法の工夫から～』とする。そのうえで、次年度は、国語科を中心とする研究を進める。国語に対する関心を高め、話したり聞いたり書いたり読んだりすることが、児童一人一人の言語能力を向上させていくことに繋がるような研究にしていきたい。

（２）残された課題への対応
- 教材観を共通理解して、授業に取り組んでいく。そのために、早い段階で計画を立て、１年間を通して子どもの育ちを見ることができる研究を進めていきたい。国語の学習をする上で、教師が困っていることは、主に次の３点である。
- 子どもが問いをもちながら読むための指導の工夫
- 子どもに読みの視点をどうもたせるか
- 子どもが目的をもって学べる単元のゴールの設定の工夫